

令和2年度第2回播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事概要

| | |
|-----|---|
| 日時 | 令和3年3月24日(水) 13:30 ~ 14:50 |
| 場所 | 播磨町役場第一庁舎3階 BC会議室 |
| 出席者 | <p>【 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 】</p> <p>鶴井 昌徹 (播磨町新島連絡協議会 会長)</p> <p>山田 文子 (商工会 理事)</p> <p>大亀 亨 (商店主)</p> <p>伊藤 裕文 (兵庫県東播磨県民局 局長)</p> <p>盛岡 慎吾 (加古川公共職業安定所 次長)</p> <p>田端 和彦 (兵庫大学・兵庫大学短期大学部 副学長)</p> <p>破魔 淳司 (但陽信用金庫 地域創生部 副部長)</p> <p>圓行 弘幸 (播磨町労働者福祉協議会 幹事)</p> <p>坂本 竜之介 (神戸新聞社 東播支社 支社長)</p> <p>平岡 尚子 (住民委員)</p> <p>井上 晴喜 (住民委員)</p> <p>【 町 】</p> <p>清水 ひろ子 (町長)</p> <p>三村 隆史 (副町長)</p> <p>浅原 俊也 (教育長)</p> <p>岡本 浩一 (理事)</p> <p>武田 健二 (理事)</p> <p>長谷川 善一 (理事)</p> <p>喜多 朗 (理事)</p> <p>藤原 秀樹 (理事)</p> <p>高砂 幸伸 (会計管理者)</p> <p>【 事務局 】</p> <p>松本 弘毅 (企画グループ統括)</p> <p>野中 照代 (企画グループリーダー)</p> <p>大友 敬 (企画グループ主事)</p> |
| 欠席者 | <p>【 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員 】</p> <p>角野 嘉則 (明石工業高等専門学校 建築学科 講師)</p> |

議事 1 開会

議事 2 挨拶

(町長)

平素は町政に格別のご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

コロナ禍も1年超にわたり2年目を迎えておりますが、いまだ終息の見込みも立たない中、間もなく新たな年度を迎えようとしています。

住民の方々や各種団体の方々と話をする中で、コロナ禍だからといって何も動き出さないままでは、まちの中のきずなやコミュニティが失われていく可能性がある、または既に失われているものもあるのかもしれない、と思います。こうしたものが、コロナ禍の終息後すぐに復活するのかと考えると、それもまた難しく、やはり十分な感染対策を行い、少しずつこれまでの動きに戻していかなければならないと考えております。

令和3年度から新たにスタートする第5次播磨町総合計画、これに紐づく総合戦略も強力に推進していかなければなりません。後ほど主要施策、KPIを報告いたしますが、これまでの取組や歩みを確認していただけますと幸いです。

また、今後これらのことを幅広く推進、展開していくにあたり、昨年から新たに設置いたしました「まちづくりアドバイザー」の存在は、大変重要であると認識しておりますので、この後の取組報告等に注目していただきたいと思っております。

本日は限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(会長)

今年度は本当にいろいろなことがありましたが、総まとめの時期を迎えている中で、皆様にはご多忙中にもかかわらずお集まりいただき、ありがとうございます。

町長から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりさまざまな活動が停止しているというお話がありましたが、私どもが関係する福祉や医療の分野では、フレイルの問題、高齢者の体力低下などにみられる問題に対して非常に関心が高くなっているところであり、大学での活動についても、感染対策を実施しながら進めていこうとしているところです。

本日の会議ではKPIの報告等がありますが、総合戦略ですから、作って終

わりではなく、見直すという作業が実は大変な部分となります。

KPI の項目数は少ないですが、その背後にある事情や状態は複雑に入り組んでいます。

気になる点や経緯など詳しく知りたい点などがありましたら、お聞きいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

議事 3 報告事項

1 主要施策・KPI について

(資料 2 及び 3 について、事務局による説明)

(副会長)

主要施策の「高齢者タクシー券交付事業」(資料 2 令和 2 年度主要施策取組状況一覧 P 6 番号 23) で、使用率が 16.05%とありますが、割合的に多いのか少ないのか、このあたりについて算出方法もお示しいただきながらお答えいただけますでしょうか。

(理事)

当該事業は令和 2 年度から新たに開始した事業ですが、当初令和 2 年 10 月からスタートする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により準備に時間を要したため、令和 3 年 1 月から開始となっております。

当該事業は年度単位で区切るようになっており、今年度は 1～3 月の 3 か月分が対象となります。

交付枚数は一人 3 枚で、交付率は 63.61%であることから関心が高い事業であると認識しています。

使用率については、当該事業が始まったばかりということもあり、現時点で高いのか少ないのかという判断はできません。

引き続き来年度以降も事業を継続していくことによって、ある程度そのあたりの基準が分かってくるものかと考えております。

(副会長)

周知が進んでいないために、この事業の認知が低い状態であるため、利用者の増加につながっていない、ということは考えられるのでしょうか。

(理事)

対象者全員に郵送で申請書を送付しているため、制度の活用を希望される方は、申し込みいただける状態であることから、周知が進んでいないとは考

えておりません。

(委員)

KPIの「人口の社会増」(資料3 KPI進捗状況一覧 P4)の令和2年度が264人とのことですが、この件についてはどう分析しておられますか？

(町長)

全国的に少子高齢化が進行している時代の中で、播磨町は都市化が進んでおり、現在も町内各地で宅地化が進んでおります。

浜幹線開通後は町南東部を中心にその傾向が顕著にみられ、農地転用による宅地化のケースが増加しています。

また、この十年来子育て施策を積極的に実施してきたことから、子育て世代が増加してきています。特に町南東部に多くみられることから、播磨南小学校や播磨幼稚園ではかなり生徒数・児童数が増加しており、校舎を増築せざるを得ないという状況が近々起きると聞いております。

高齢化が進むため、お亡くなりになる方の数も増えるため人口は自然減となることが予測されますが、それを上回るペースで播磨町に新しい家を見て、引っ越ししてくる定住者の数がある状況で推移しており、トータルの人口は、まだまだ微増を続けていく可能性があるのではないかと考えております。

(会長)

第1期の総合戦略は、人口の社会増を目指していくことが柱でもありましたので、この令和2年度の数値を見ると、十分達成できたと評価されるべき点だと思います。

(町長)

昭和20年頃にあった水害以降、大きな災害による甚大な被害を経験しておらず、今後予測されている南海トラフ巨大地震への対応も進めているところなので、安全に安心して暮らしていける地域だと認識されているのかと思います。

また、新島には60社以上が操業しており、職住近接という環境が整っているという点も評価できるのではないかと考えております。

2 第2期播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略について
(資料4について、事務局による説明)

(会長)

今年と来年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で全国的にも合計特殊出生率は大きく減少することが想定されますので、注視していただきたいと思います。

ただ、先ほどご説明いただいたとおり、宅地化の増加による若い世代の定住人口の増加によって、第1期で社会増に取り組み、第2期で自然増へとつなげていくという、地方創生のパターンとも合致しているものであると考えられます。

議事4 講演

テーマ：「これからの協働のまちづくり」

講師：播磨町まちづくりアドバイザー 佐伯 亮太 氏

議事5 閉会